

令和8年度地域コミュニティ協議会（一山校区）の議事録について

日 時：5月26日（火）18時30分～20時00分

場 所：大山崎町立老人福祉センター 長寿苑 大広間

出席者：（大山崎町役場）前川町長、南教育長

浅田総務部長、沖健康福祉部長、藤波環境事業部長、武田教育次長

事務局：中村企画財政課長、柳瀬企画観光係リーダー

町内会・自治会長15名、自主防災組織代表者3名、民生・児童委員1名

1. 開会、あいさつ

2. 町から説明

資料① 主な年間行事及び担当窓口について

別添資料参照。

資料② 地域コミュニティ協議会（一山校区）について

●組織の定義

各小学校区を単位とし、町内会・自治会および地域で活動する各種団体等により構成される組織である。

●設置の意義と必要性について

町内会・自治会における担い手不足や運営状況の地域格差という課題を解決し、地域運営を持続可能にするため、単独活動ではなく団体同士が相互に助け合えるネットワークを構築することを目的とし、行政と住民が対等な立場で課題解決を図る仕組みとして設置したものである。

●運営方法について

- ・将来的には住民が主体となって運営方法を決定する形を目指す。
- ・「事務負担の増加」については十分承知しており、当面は町が会議運営等の事務を担い、負担を軽減する体制をとる。
- ・今後は小学校PTAや懇談会参加者など、参画団体を拡大できるよう調整を進める方針である。

●地域行事との連携について

毎年7月に大山崎小学校で開催される「山っ子夏まつり（町商工会青年部主催）」について、本協議会としても何らかの形で関与していくことを検討している。まずは現時点でお祭りへの協力を強制するものではないが、協議会として関心を持ち、当日の状況把握等を含めて検討をお願いしたい。

《参加者からの意見》

- ・活動しやすくするためにも規約は最初から策定しておく必要はないと思う。この協議会が活性化していき、必要になったときに策定すればよい。

資料③ 山っ子夏まつりについて（主催の町商工会青年部から説明）

●夏まつりの概要について

開催日: 7月20日（月・祝）16時から20時まで

場 所: 天王山夢ほたる公園（出店・会場）、中学校グラウンド（打ち上げ花火）

※安全対策のため、観客と花火打ち上げ場所を分離して開催。

目 的: 地域の子どもたちに楽しんでもらうことを主眼とし、4年前に青年部が独自に立ち上げたもの。昨年度実績で約1,000～1,200名の来場がある。

●協力依頼について

運営体制の課題: 立ち上げ当初は15名程度いたメンバーが年々減少し、現在は7～8名体制で運営している。

持続可能性への危機感があり、現状の部員数のみでの運営継続が困難となっている。今後も子どもたちのための祭りを存続させるため、地域コミュニティ協議会の協力を得たい。

《質疑応答》

Q：青年部は協議会メンバーに具体的に何を期待しているのか。

A：今年度は、祭りを継続するための「当日ボランティア（会場保全や運営サポート）」をお願いしたい。将来的には、協議会が主体となって実行委員会形式で祭りを運営できる形を目指したいと考えている。

3. その他の意見交換

Q：回覧板や募金の個別回収業務が非常に負担となっており、改善できないか。

A：回覧業務は必要なものに内容を精査する。募金回収については、すでにキャッシュレス決済が可能なものもあるため、その活用を促すとともに、広報を強化して住民の負担軽減を図りたい。

Q：自治会活動のデジタル化を推進したいが、LINE 利用料などの費用が課題であり、支援等はあるか。

A：デジタル化による効率化の必要性は認識している。導入にかかる費用感や、他自治会での先行事例を調査し、活用できるような方法を模索していきたいと思っております。

Q：駅周辺や高架下など、夜間の防犯が不安である。防犯カメラを設置できないか。

A：危険箇所に関するマップ等に基づき、PTA や警察と協議の上、予算の範囲内で順次設置を検討する。

Q：保育所への送迎車が通学路を塞いでおり危険である。

A：現状で即効性のある解決策を提示するのは困難であるが、保護者への継続的な啓発を行うとともに、より安全な誘導や駐車場利用の方法について今後も対策を検討する。

Q：会議の参加率を上げるために、Web 会議やデジタルとの併用はできないか。

A：同時に実施することは検討させていただく。すぐに導入することは難しいが、参加しやすい環境づくりについて検討する。